漢文 句形 まる見え1枚シート

白文から「書き下し」と「訳」でまる暗記。漢文の点数は句形でほぼ決まります。字を見たら→型で読む→訳す、の3ステップを反射でできるようにしよう。

★★★ 入試超頻出　★★ よく出る　★ 余裕があれば　💡 覚え方　▶ 例文

否定 ▶ 二重否定・禁止 ▶ 疑問・反語 ▶ 使役・受身 ▶ 比較・仮定 ▶ 限定・抑揚

まずは否定と疑問・反語を完璧に。反語（あに〜や）は「いや、〜ない」と必ず逆の意味で訳すのが最重要ポイント。

読む順：左の列を上から順に ▶ 終わったら 右の列へ（見出しの番号が順番です）

1 否定 — まずはこの4つ

字	頻出	書き下しの型	訳
不・弗	★★★	〜（せ）ず	〜ない
未	★★★	未だ〜ず	まだ〜ない
無（无）	★★★	〜（は）なし	〜がない
非	★★★	〜（に）あらず	〜ではない

💡 **「未」は再読文字**。一度「いまだ」と読み、返ってもう一度「ず」と読む。点を打つと「未ダ〜ず」。

▶ **例文**：過ちて改めざる、是を過ちと謂ふ → 過ちを犯して改め**ない**、これを過ちという。

▶ **例文**：未だ仁を好む者を見ず → 仁を好む者を**まだ**見たことが**ない**。

2 二重否定 — 否定が2つで強い肯定に

字	頻出	書き下し	訳（プラスの意味になる）
無不	★★★	〜ざるは（も）なし	〜しないものはない＝みな〜する
非不	★★	〜ざるにあらず	〜しないのではない＝確かに〜する
不可不	★★★	〜ざるべからず	〜しなければならない
無非	★★	〜にあらざるは（も）なし	〜でないものはない＝すべて〜だ

💡 **否定×否定＝強い肯定**。「無不」＝しないものなし→「みんなする」、「不可不」＝しないでいられない→「絶対する」と頭の中で言い換える。

▶ **例文**：聞く者為に流涕せざるは無し → 聞く者で涙を流さ**ない者はいなかった**（＝みな泣いた）。

▶ **例文**：学ばざるべからず → 学ば**なければならない**。

3 禁止 — 「〜なかれ」

字	頻出	書き下し	訳
勿・莫・無・毋	★★★	〜（する）（こと）なかれ	〜してはならない・〜するな

💡 **「無・莫」は二刀流**。文頭で「なし（否定）」、命令的に使うと「なかれ（禁止）」。前後の意味で判断。

▶ **例文**：己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ → 自分が望まないことを、人にし**てはならない**。

4 疑問 — 素直に「〜か」と問う

字	頻出	読み・訳
乎・哉・也（文末）	★★★	〜（や・か）／〜か
何	★★★	なに（何を）・なんぞ（なぜ）
誰	★★	たれ（だれ）
安・焉・悪	★★	いづくんぞ（どうして）・いづくにか（どこに）

疑問詞　文末助字

💡 **文末の「乎・哉・也」**は「や・か」と読んで疑問を作る合図。疑問詞（何・誰・安）とセットになることも多い。

▶ **例文**：吾誰をか欺かん → 私はいったい誰を欺くというの**か**。

▶ **例文**：何為れぞ泣くや → **どうして**泣くの**か**。

5 反語 — 「いや、〜ない」が命

型	頻出	書き下し	訳（必ず逆の結論に）
豈〜（乎）	★★★	豈に〜（ん）や	どうして〜か、いや〜ない
何〜（乎）	★★★	何ぞ〜（ん）や	どうして〜か、いや〜ない
安〜（哉）	★★	安くんぞ〜（ん）や	どうして〜か、いや〜ない

💡 **疑問と反語の見分け**＝文末が「〜ん（推量・意志）＋や」になっていれば反語。訳は必ず「いや、〜ない」と反対の結論で締める。これが配点の山。

▶ **例文**：燕雀安くんぞ鴻鵠の志を知らんや → ツバメやスズメ（小人物）に**どうして**大きな鳥（大人物）の志がわかろう**か、いやわかるまい**。

6 使役 — 「人をして〜しむ」

型	頻出	書き下し	訳
使・令・遣・教 ＋ 人 ＋ 動詞	★★★	人をして〜（せ）しむ	人に〜させる

💡 **形は「使A B」**。A（人）**をして**、B（動作）**しむ**。「しむ」が出たら使役と即断。使・令・遣・教は「シレケンキョウ」とまとめて覚える。

▶ **例文**：王、人をして之を視しむ → 王は、人**に**これを見**させた**。

7 受身 — 「〜（ら）る」

型	頻出	書き下し	訳
見・被 ＋ 動詞	★★★	〜（せ）らる	〜される
為A所B	★★★	AのBする所と為る	AにBされる
於（于・乎）＋ 人	★★	〜（人）に〜（せ）らる	（人）に〜される

💡 **「為A所B」**は受身の超頻出パターン。「為」＋「所」を見たら「AにBされる」と機械的に変換。

▶ **例文**：信にして疑はれ、忠にして謗らる → 誠実なのに疑わ**れ**、忠実なのにそしら**れる**。

▶ **例文**：先んずれば則ち人を制し、後るれば則ち人の制する所と為る → 先んじれば人を制し、遅れれば人**に制される**。

8 比較・選択 — 「〜にしかず」

型	頻出	書き下し	訳
不如・不若	★★★	〜（に）しかず	〜に及ばない・〜のほうがよい
A孰与B	★★	AはBに孰与（いづ）れぞ	AとBとどちらが〜か
莫如・莫若	★★	〜（に）しくは（も）なし	〜に及ぶものはない＝〜が一番だ

💡 **「不如B」＝Bに及ばない＝Bのほうがよい**と、後ろのBを高く評価する向きで訳す。「莫如B」は最上級「Bが一番」。

▶ **例文**：百聞は一見に如かず → 百回聞くのは一回見るのに**及ばない**（見るほうがよい）。

9 仮定 — 「もし〜ば」「〜といへども」

字	頻出	書き下し	訳
若・如・苟	★★	若（も）し〜ば	もし〜ならば
雖	★★★	〜（と）いへども	〜であっても・〜だけれども

💡 **「雖」は逆接の仮定・確定どちらも**。「たとえ〜でも」か「〜けれども」。前後の文脈で訳し分ける。「苟（いやしく）も」は「仮にも・もし」。

▶ **例文**：千里の馬は常に有れども、伯楽は常には有らず → 名馬は常にいる**けれども**、見抜く伯楽は常にはいない。

10 限定 — 「ただ〜のみ」

字	頻出	書き下し	訳
唯・惟・独（文頭）	★★	唯（た）だ〜	ただ〜だけ
耳・而已・爾（文末）	★★★	〜（の）み	〜だけだ・〜にすぎない

💡 **文頭「唯」＋文末「のみ」**で挟むのが完全形＝「唯だ〜のみ」。文末の「耳・而已」を見たら「のみ」と読み限定の合図。

▶ **例文**：直だ百歩ならざるのみ → ただ百歩で**ないだけ**だ（五十歩百歩）。

11 抑揚 — 「いはんや〜をや」

型	頻出	書き下し	訳
況〜（乎）	★★	況（いは）んや〜をや	まして〜はなおさらだ（当然だ）

💡 **抑揚＝軽い例で抑え、重い例を揚げる**。前に「且・尚（すら）」が来て「Aすら〜、況んやBをや（Aでさえそうだ、ましてBは当然）」の形が定番。

▶ **例文**：死馬すら且つ之を買ふ、況んや生ける者をや → 死んだ馬**でさえ**買うのだ、**まして**生きた馬**はなおさら**（買う）。